

「どうするオバマ、どうなるアメリカ」第2回

【ティーパーティーはワシントンを変えるか】来日予定者



ジョン・ファンド (John Fund)

『ウォール・ストリート・ジャーナル』紙コラムニスト

保守系ジャーナリストを代表する一人。政治・経済・社会・歴史に関する圧倒的な知識と、全米に広がる人的ネットワークを武器に繰り出すコラムは、ワシントンの政策決定者や議会関係者、そして全米の草の根活動家から常に注目を集める。1984年、*Wall Street Journal* (WSJ) 紙に論説次長として参加。1995年から2001年まで WSJ 紙編集委員を務め、現在は WSJ のコラムセクション“On the Trial”を担当している。また保守系言論誌 *American Spectator* 誌のシニアエディターも兼任する。1992年の著書 *Cleaning House: America's Campaign for Term Limits* でウォーレン・ブルックス賞を受賞している。



マット・キビー (Matt Kibbe)

フリーダム・ワークス CEO

「ティーパーティー（茶会）運動」の中核的存在であり、いまワシントンで最も注目を集める人物の一人。中間選挙前後は主要ネットワークに連日出演し、茶会の「スポークスマン」として活躍した。90年代後半にフリーダム・ワークス (FW) に参画し、そのリーダーシップのもと、FW は広範なネットワークを全米に構築し、ワシントンの政策決定過程のみならず、連邦・州レベルの選挙結果を左右するほどの存在となった。これまでに、米国商工会議所で連邦政府予算ディレクター、共和党全国委員会で上級エコノミストなどを歴任。2003年までダン・ミラー下院議員の首席補佐官と下院予算委員会政策スタッフを務めた。



ジェームズ・ルシア (James P. Lucier, Jr.)

シンジケート・コラムニスト

キャピタル・アルファ・パートナーズ LLC, マネージング・ディレクター

プリンストン大学で日本史を専攻した日本通。WSJ 紙などにも寄稿するコラムニストであり、ワシントンに広範な人脈を持つことでも知られる。保守派グラスルーツ団体の要といわれる Americans for Tax Reform (ATR) でグローバー・ノーキスト会長に側近として仕え、1994年のアメリカ保守革命を草の根から支えた一人である。連邦議会にも幅広いネットワークを持ち、例えば下院エネルギー・商務委員会の上級政策スタッフらと特に親交が深い。過去にプルデンシャル保険グローバル・エクイティ・リサーチ社の副社長などを歴任し、ワシントンのビジネス界とも強い繋がりを持つ。